



「地域包括ケアの中核に」

日本訪問看護財団訪問看護認定看護師教育課程第9期修了式開催

去る3月20日(木)、東京都渋谷区のアイビーホールで、公益財団法人日本訪問看護財団による訪問看護認定看護師教育課程第9期の修了式が開催された。北は北海道から南は鹿児島県まで、全国から集まった16名の修了生たちは、涙を浮かべながらも晴れがましい表情で修了証書を受け取った。その後の5月に行なわれた認定試験を経て、晴れて認定看護師の仲間入りを果たした。

1997年に認定が始まった認定看護師制度は、現在21分野に広がっている。訪問看護認定看護師は、7番目の認定看護師として、2006年7月に誕生した。2014年6月現在、全国で373名が活躍している。その教育課程は、同財団・聖路加国際大学・公益社団法人愛知県看護協会・公益社団法人兵庫県看護協会に設置されている。

同財団は、2005年10月から第1期を開講し、「地域で暮らす人々が疾病や障がいがあってもQOLを満たした生活が主体的に継続できることをめざし、地域で支える看護実践の専門家・指導者を育成して、訪問看護等在宅ケアの質向上及び推進を図る」という理念のもと、6か月間集中型の教育を行ってきた。個性豊かな9期生の面々は、ステーション勤務の訪問看護師のみならず、病

院に勤務しているもの、複合型ステーション開設しているもの、20年近くのキャリアがあるものと年齢も経歴もさまざまだ。修了式では、来賓からの祝辞に真剣な表情で耳を傾けながら、「超高齢社会を支える存在に」「地域包括ケアの構築はみなさんの肩にかかっています」との言葉に、決意を新たにしようという意気込みがうかがえた。

修了証授与のあと、「一人ずつ一言を」と上野まり学科長に促されると、はにかみながら「何度も挫折しそうになって、もうやめようと思った」「自分がここにいていいのかと自問自答した」と、時につらかった心中を吐露しつつも、「先生方や実習指導者、仲間を支えてもらってやり遂げられた」「この6か月の経験が自分を変えてくれた」「地域に帰って、ここで学んだことを活かしていきたい」と前向きな表情を見せた。謝恩会でも「地元に戻ったら新しいステーションを開きたい」と語るなど、その姿は早くも頼もしい。

折しも本年の診療報酬改定で機能強化型ステーションが位置づけられるなど、訪問看護への期待がこれまで以上に高まっている。訪問看護認定看護師の報酬上の評価も待たれるが、今回は実現しなかった。地域包括ケアシステムの中核と



して、地域の医療と生活を支えていく訪問看護認定看護師の活躍を、本誌はこれからも追いつけた。

2014年10月からは第10期の教育課程が始まり、新たなステージへと挑戦する受講生が集まる。

聖路加国際大学、兵庫県看護協会は本年8月から、愛知県看護協会は10月から、2015年度の出願募集を開始する(158頁)。